

昭和 10 年代の高知県域地方紙に掲載された洞窟の所在 その 1 「郷隴洞」

The Location of Caves Published in Kochi Prefecture Local Newspapers in 1935 & 1936, Part 1 "Goro-do Cave"

千葉伸幸 (Nobuyuki CHIBA)

地底旅団 ROVER 元老院所属 東京都在住

1. はじめに

土佐国(現:高知県)の歴史、地理、考古、民俗を調査研究する愛好会「土佐史談会」の機関誌「土佐史談」には、以前は新聞雑見という項目があり、各新聞からの地域ニュースが転載されていた。そこには高知県内で1935(昭和10)年と1936(同11)年に鍾乳洞がそれぞれ発見されたとあり、洞内の様子や期待度の高まりと共に掲載されている。

高知県は龍河洞、菖蒲洞など160洞もの石灰洞や非石灰洞が報告(満塩ほか,2001)されている地域であるが、新聞記事内の洞窟名では報告されていない。そこで記事から該当する既知の洞窟を推察した上で実地踏査を行い、これらがどの洞窟に該当するか特定することを試みた。

なお、尺貫法での長さの単位は一丁=約109m、一尺=約30cmである。

2. 記事①「新改若宮にて鍾乳洞発見」

1935(昭和10)年発行の「土佐史談 第五十参號」には以下の新聞記事が縦書きで掲載されている。

<原文>

新改若宮にて鍾乳洞発見

鐵道省指定のキャンプ地甫喜山より山田へのハイキングコースの途中の休息地として、最近めき／＼賣りだした長岡郡新改村若宮温泉の附近に、石灰洞が発見され目下開鑿を續けてゐるが、既に續々見物客が押しかけてゐる、右石灰洞は若宮温泉より約二丁郷隴谷に在り、温泉より洞の入口を眺見し得る位置にある、地元保勝會では地名をそのまま郷隴洞と命名してゐる、洞内は目下開鑿中であるが、路は杉丸太の皮付きのまゝを用ひ野趣をたゞよはし、現在でも見物には約一時間を要する、洞内には大小の鍾乳石多く輝くばかりの純白色のものも多く、千姿萬態の奇觀を呈してゐる中にも、奇觀を呈せるものは龍宮殿、千段の瀧、七福神の寶船、夜光珠、上り龍、修道院の尼僧等がある、現在命名された丈けでも五十餘に上つてゐるが、開鑿の進捗に従ひ如何なる奇觀が現れるかも知れず、各關係方面の待望の的となつてゐる。

(昭和一〇・一一・一二 高知新聞・土陽新聞)

<現代文>

新改村若宮にて鍾乳洞発見

鐵道省指定のキャンプ地「甫喜山」より山田へのハイキングコース途中の休息地として、最近めきめきと売り出した長岡郡新改村の若宮温泉付近で石灰洞が発見され、現在開削を續けているが、既に續々と見物客が押しかけている。

石灰洞は若宮温泉より約218mの「郷隴谷」にあり、温泉より洞口を眺めることができる位置にある。地元の保勝会では、地名をそのままに「郷隴洞」と命名している。

洞内は現在開削中であるが、通路には杉丸太を皮付きのまま使用し、野趣を漂わしている。現在でも見物には約1時間を要する。

洞内には大小の鍾乳石が多く、輝くばかりの純白色のものが多い。千姿萬態の奇觀を現わしている中にも、奇觀は「龍宮殿」「千段の瀧」「七福神の寶船」「夜光珠」「上り龍」「修道院の尼僧」等がある。現在命名されただけでも50余りあがっているが、開削の進捗に従って如何なる奇觀が現れるかも知れず、各關係方面の待望の的となっている。

(昭和10年11月12日 高知新聞・土陽新聞)

3. 事前調査

新聞記事内容から「郷隴洞」と命名された石灰洞の特定を試みた。

洞窟が発見された長岡郡新改村は、香美郡土佐山田町への合併を経て、現在の香美市土佐山田町の一部(平山、東川、曾我部川、入野、新改、上改田、久次、須江)となっている。土佐山田町曾我部川には若宮温泉があり、温泉施設「ニューわかみや温泉」(曾我部川60-2)が営業している(調査当時/2020年には閉鎖)。

若宮温泉付近の石灰洞としては横穴型石灰洞「若宮洞(別名:龍馬洞)」が報告されており(高知ケイブ・フェスティバル1991事務局編,1991)、その測量図には洞内名称として「七福神ノ寶船」「修道院ノ尼僧」等が記載されている。これらは発見当時の名称「七福神の寶船」「修道院の尼僧」と共通している。

そこで若宮洞が掲載された資料を調べると、「龍が洞の北五キロの地に郷隴洞、一名若宮洞がある。」(上村,1965)、「觀光洞として知られている若宮洞(郷隴洞、竜馬洞とも呼ばれる)」「(川沢ほか,1978)とあり、「郷隴洞」は「若宮洞」の別名であることが判明した。

また、郷隴洞の読み仮名は「ごうろうどう」であることも判明した。(武市,1937)



香美市と若宮洞周辺の位置(Map-It マップイットを修正・加筆)